

文=片桐卓也(音楽ライター)  
写真提供=サントリーホール

# サントリーホールが古代の祝祭空間に!? 日本を代表する和洋の奏者と 歌舞伎役者で描く壮大な物語

ジャンルを超え、日本に根付く芸術の担い手たちが集合。東日本大震災以降、閉塞感から抜け出ていない日本を音楽の力で元気にしたいと企画されたのが『太陽の記憶―卑弥呼』だ。



菅野由弘

前代未聞の  
世界初演!



堤 剛 © 鍋島徳彦



大谷康子  
© 尾形正茂



中村児太郎



常磐津文字兵衛

歌舞伎の中村福助、作曲家の菅野由弘、ヴァイオリニストの大谷康子、三味線の常磐津文字兵衛という各界一流の芸術家が出会い、この企画が誕生した。卑弥呼というテーマを長く温めてきたのは中村福助。その想いを知り、作曲家の菅野が構想したのが、これまでに無かった楽器の組み合わせによる祝祭劇だ。

「日本には雅楽、聲明、能楽、歌舞伎の音楽など、古くからの伝統を持つ音楽があります。それらと明治以降に輸入された西洋の音楽、楽器がすべて一緒に舞台上で演奏することは、これまでありませんでした。この『卑弥呼』ではそうした楽器が一堂に会し、新しい音の世界を作り上げます(菅野)

先日ホールで行われたリハーサルでは、パイプオルガンと笙、能管、箏、三味線、チェロとコントラバスなどが作る音楽が、まるで古の空間に誘うようだった。そしてそこに聲明も加わる。

客席と一体となった音楽劇に  
独奏ヴァイオリンで卑弥呼を表現するのは大谷康子。

「卑弥呼の時代にタイムスリップをして音楽を奏でているような気持ちになりました。音だけで物語を表現する新しい試みになるでしょう。ヴァイオリンは客席にも降りて演奏しますので、ホールが一体となった舞台を楽しんでいただけたと思います」

音楽の「卑弥呼」に対して、舞踊で卑弥呼を表現するのが中村児太郎だ。

「父(福助)が持っている卑弥呼

## これもcheck!

### アークヒルズ音楽週間とことん楽しもう!

期間: 10/4(土)~11(土)  
9月下旬~11月下旬の約2ヵ月間、恒例の秋の音楽フェスティバルを開催するサントリーホール。なかでも毎年好評なのが、無料でさまざまな音楽に触れることができる「アークヒルズ音楽週間」だ。ホールのロビーやカラヤン広場を中心に、魅力溢れる音楽イベントを多数開催。家族や友人を誘って気軽に足を運んでみよう!



のイメージを自分なりに消化しながら、卑弥呼を踊りたいと思っています。歌舞伎の踊りとは違う斬新な踊りになると思っていますので、自分にとっても大きな挑戦です。衣装の色のイメージも、大谷さんと相談しながら、いろいろと考えたいと思います」

この古代祝祭劇はサントリーホール、札幌コンサートホール、福岡シンフォニーホール共同制作で、それぞれ1日限りの貴重な公演だ。日本を代表する音響の良いコンサートホールで、新しい響きに出会えるだろう。

## 公演情報

札幌コンサートホール/福岡シンフォニーホール/サントリーホール 共同制作  
古代祝祭劇「太陽の記憶―卑弥呼」

11/18(火) 19:00 大ホール  
企画: 中村福助/菅野由弘/大谷康子/常磐津文字兵衛  
演出: 中村福助  
作曲・指揮: 菅野由弘  
ヴァイオリン: 大谷康子  
中棹三味線: 常磐津文字兵衛  
チェロ: 堤 剛  
舞踊: 中村児太郎  
舞踊・振付: 中村梅彌  
出演: 花柳達真(舞踊・振付) / 花柳昌風生、花柳静久郎、藤間直三、水木扇升、藤蔭美湖、五條珠雀(以上舞踊) / 宮田まゆみ(笙) / 岩竜裕子(龍笛) / 一噌幸弘(能管) / 石垣征山(尺八) / 首藤久美子(琵琶) / 黒川真理、後藤幹子、吉川あいみ、日吉章吾(以上箏) / 平田紀子(十七絃) / 望月太喜之丞(邦楽打楽器) / 大本山増上寺式師会(聲明) / 海野幹雄、富岡康太郎、谷口宏樹、刈田鉄平、小野木達、飯島哲哉(以上チェロ) / 星 秀樹、岩田貴弘、柿沼 集、橋本裕貴(以上コントラバス) / 神田佳子(洋楽打楽器) / 山口綾規(パイプオルガン)  
S ¥9000 A ¥7000 B ¥5000  
※11/24(月・休) 札幌コンサートホール、11/26(水) 福岡シンフォニーホールでも同公演あり。  
お問合せ: サントリーホールチケットセンター  
☎0570-55-0017  
詳細は

